

令和5年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 芸術文化に触れる機会の提供(自主事業)(使命2)	1 同時代の多岐にわたる表現を多角的に紹介	□①新・今日の作家展 実施回数	1回	1回	「新・今日の作家展2024 ここにいるーVoice of Place」を9/16～10/9に開催し、来田広大、古橋まどかの新作を交えた作品を紹介しました。	<p>【成果】 出品作家はいずれも若手～中堅の間に位置しながら首都圏での発表の機会が少なく、作品の外観は異としますが、いずれも意欲的な構成をし、また響き合いも見られたことで来場者から好評を得ました。作家インタビューを収めた小冊子や各イベントの開催は作品の理解や鑑賞体験の充実に繋がりました。展示の様子を伝える記録集もWeb公開、後に冊子で発行しその成果をアーカイブしました。</p> <p>【課題】 目標人数が昨年に続き未達成となりました。多くの方にご覧いただけよう、広報の強化が必要です。</p>	<p>【評価できる点】 ・「新・今日の作家展」は、自己や他者に対する内的な気づきをもたらすことに繋がるというコンセプトにより、2名のアーティストを紹介し、アーティストインタビュー及びアーカイブの充実を図りました。昨年に続き入場者数は伸び悩みましたが、来場者のアンケート評価では4.62と高い評価を得ました。 ・企画講座においては、人気の定番講座のほか、新たな講座を開催し、従来の参加者とは違う層の新規利用者を迎えることができたことを評価します。全ての講座で定員を超える応募者があり、参加者のアンケートも4.79と高い満足度に繋がりました。 ・11月に実施した「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」の5館連携で実施したスタンプラリーとパネル展示は、市外からも参加者があり、当館を幅広く周知できるよい機会となりました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」の5館連携や地域・団体との更なる連携取組により、地元の活性化に寄与することを期待します。 ・展覧会及び企画講座は共にアンケートで高い評価を得ており、SNSの活用等、広報活動を工夫することで、その魅力を多くの方に伝え、目標人数を達成することを期待します。</p>
		□②アーティスト・インタビュー、アーカイブ 実施人数	1名	2名	出品作家2名のインタビューを実施。		
		□③トークイベント、ワークショップ 実施回数	2回	3回	①9/16 鼎談「うごき/Mover たがやし/Cultivar つくること/Crear」来田広大×荒井規向(ラテンアメリカ研究者 ※オンライン出演)×藤本悠里子(キュレーター/コーディネーター) ②9/30 対談「喪、庭、生きることー日常について」古橋まどか×野上貴裕(東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程) ③10/7 学芸員によるギャラリートーク		
		□④入場者数	4,000名	3,802			
		■⑤出品作家の継続的な広報支援	随時	随時	「新・今日の作家」過去の出品作家の活動を継続し広報し支援しました。		
		□⑥記録集の作成 実施回数	1回	1回	当初Web版のみ公開しましたが、年度末に事業予算の残より冊子版を発行しました。		
		□⑦顧客満足度	4.0以上	4.62			
		2 芸術文化に親しみ、集い、様々な背景を持つ人との交流を促す	□①大人のためのアトリエ講座 講座数	10回	10回		
	□②つくて学ぶ 実施回数		7回	7回	①4/13,20,27,5/4「着衣クロッキーAコース」 ②5/24,31,6/7,14「着衣クロッキーBコース」 ③5/19,26,6/2,9「人体を描くーヌードと着衣ー」 ④11/17,24,12/1,8「着衣クロッキーCコース」 ⑤1/14「言葉と遊ぶ、言葉と出会う」 ⑥1/18,1/25(休講),2/1,8,15(振替)[和の装いを描く] ⑦2/17「銅版画石膏刷り」		
	□③きいて学ぶ 実施回数		3回	3回	①4/29「凸凹で刷る版画・コラグラフ」 ②6/15「親が知っておきたい～紙あそび・お絵かき遊び～」 ③12/2「『背守り』をつくるー子どもの元気な成長を願うー」		
	□④コレクション活用講座 企画(②または③の内数)		実施	実施	4/29「凸凹で刷る版画・コラグラフ」 1/14「言葉と遊ぶ、言葉と出会う」 2/17「銅版画石膏刷り」		
	□参加者数		200名	180名	感染症対策として例年の8割程度に定員を減らして開催しました。		
	□顧客満足度		4.0以上	4.79			

令和5年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

	3 多様な価値観を受け入れ、互いを尊重し合う文化の醸成に貢献	■①横浜・紅葉ヶ丘まいらん	通年	通年実施	「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」については、5館が連携し、通年で紅葉ヶ丘周辺地域の魅力を発信しています。11月には、5館と伊勢山皇大神宮でスタンプラリーを行い、11/18は当館パネル展示とフリー見学会を実施しました。	<p>(1-3-①横浜紅葉ヶ丘まいらん)</p> <p>【成果】 5館が連携し、通年で紅葉ヶ丘周辺地域の魅力を発信してきました。11月には、5館と伊勢山皇大神宮でスタンプラリーを行い、11/18は当館パネル展示とフリー見学会を実施しました。アンケートでは、近隣のみならず市外からも参加者があり、イベントを通じ紅葉ヶ丘周辺にアクセスがあったことが伺えました。</p> <p>【課題】 近隣の市民や企業がへのアプローチが弱く、「まいらん」の取り組みを、コンスタントに発信するツールが今以上に必要です。</p>	
	1 豊かな収蔵作品の魅力を伝える	□①コレクション展 実施回数	1回	1回		<p>【成果】 初めて版画特集によるコレクション展を開催し、活用機会の少なかった作品を多数展示するなど、コレクションを新鮮な視点で紹介し、その魅力を発信しました。版画の技法に着目しつつ、現代版画の表現の多様性を感じられる展示構成とし、アンケートからも、来場者がそれぞれに好きな作家や作品を見出したり、版表現への新たな視点を獲得しながら展覧会を楽しんがことが伺えました。顧客満足度平均はこの10年で最も高い評価でした。鑑賞サポーター(ボランティア)が作品と来場者を繋ぐ役割を担い、美術を介して他者と交流するイベントを共に創りました。その他、幅広い層の方が楽しめるよう様々な工夫しました。</p> <p>【課題】来場者の満足度の高い展覧会でしたが、入場者数は目標に至りませんでした。魅力ある展示内容を適切に伝え、広く関心を得るための広報の工夫がさらに必要です。</p>	<p>【評価できる点】 ・「コレクション展」では、初めて版画に焦点をあてた展覧会を開催し、紙版画のワークショップや小学生向けに館内探検ツアーを実施するなど、幅広い年代の方が興味を持ってご参加いただけるよう工夫を凝らし、来場者の満足度がこの10年で最も高い評価を得る結果に繋がりました。 ・IPMを取り入れた収蔵庫の温湿度管理を適切に行い、8点の作品修復を行い作品の環境維持に努めた点を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・より多くの方へ周知できるよう、オンラインによる配信、ホームページやSNSでの情報提供やエントランスモニター等での作品紹介などを充実させる取組を継続することに加え、実展示についても多彩でユニークな企画による更なる鑑賞者の拡大に繋がる計画・運営を進めてください。また、広報の強化による入場者目標の達成を期待します。</p>
2 収蔵作品の管理・保管、及び活用(使命3)	2 幅広い年代の方々に、収蔵作品の魅力を伝える	□①コレクション活用講座企画※1-2-④記載	-	-		<p>【成果】 ホームページ「収蔵作品検索ページ」では収蔵作品の新規サムネイルを299件(全1,129件)公開しました。併せて年度末に実施した全国美術館収蔵品サーチ「SHUZO」(国立アトリサーチセンター)への当館収蔵作品に伴いデータを精査し、ホームページ掲載情報も更新し、データベースとしての価値が向上しました。同「今月の1点」では『画廊散歩』表紙に掲載した作品の解説を公開し、作品理解の機会を拡張しました。</p> <p>【課題】 作品サムネイルの公開は今後は新規撮影したものの追加が基本となります。作品情報は継続的な調査が必要です。</p>	
	3 収蔵作品を計画的かつ適切に管理・保存し、次世代に継承	収蔵庫環境管理および収蔵作品の管理・修復・貸出の適切な実施 ■①IPMを取り入れた収蔵庫の環境管理 実施回数	隔月 週1回	隔月 週1日		<p>【成果】 IPMを取り入れた収蔵庫の環境管理は適切に実施し、環境の維持につとめました。収蔵作品の調査研究、データ類の管理も随時実施した上、特に上述「SHUZO」へのデータ提供時にまとめて情報を更新しました。作品の修復は8点実施し、状態が向上しました。ホームページでの事業アーカイブ拡大が進んだためか、他館等からの問合せも増えましたが、都度適切に対応しました。</p> <p>【課題】 収蔵庫の温湿度管理の抜本的な解決のためには空調機器の取替えが必要です。調査研究は他業務と並行しての実施となるため、時間の確保が課題です。作品修復は年度予算内で実施していますが、修復緊急度が高い(費用がかかり期間が長い)ものが残っていく傾向にあり、一方で一度処置した作品も再度修復の必要が出るのが懸念され、状況を鑑みながら計画・実施が必要です。</p>	
		■②収蔵作品の調査研究/データ類の管理	随時	随時			
		■③収蔵作品の修復	実施	実施	可能な場合は職員による自前クリーニングも併用し、修復・クリーニングを進めました。クリーニング終了後の作品は再撮影を行い公開データの拡充にも繋がりました。		
		■⑤収蔵作品の貸出、問い合わせ等対応	随時	随時	収蔵作品や図版の貸出し、問合せ以外にも開催展覧会や出品作家の問合せや熟覧等にも随時対応しました。		

令和5年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
3 子どもたちをはじめとする次世代育成(使命4)	1 子どもたちが表現活動に取り組み、芸術文化に身近に触れる機会の提供	□①横浜市こどもの美術展 実施回数	1回	1回		(1-①横浜市こどもの美術展) 【成果】 4年ぶりに団体出品の受け入れを再開し、1階から3階まで展示室が子どもたちの作品でいっぱいになり賑わいました。会期中のワークショップは来場者が安心して参加できるような引き続き感染症対策を行いながら、「みんなで空間をつくる」という要素を加えることで、子どもと大人が一緒に楽しめる内容を実現しました。来場者へのアンケートおよびインタビューを行った結果、大変高い満足度を得ることができました。ボランティアとインターンによる活動もコロナ禍前の規模に戻し、中学生以上の幅広い世代の方が活躍、美術を通して交流する機会として大変有意義でした。	【評価できる点】 ・55回目を迎えた「横浜市こどもの美術展」は、コロナ禍により4年ぶりに団体作品の受け入れを再開し、館内1階から3階までの展示室が作品で賑わい、活気が戻りました。 ・感染症対策として6割程度に減らして子ども向け講座を開催しましたが、こどものためのコレクション展を混雑緩和のため、みんなでつくるコーナーとして内容を変更し、英語対応が可能な講座を実施するなど、工夫しながら子どもが多様な体験を得られる機会の提供が行えたことを評価します。 ・ホームページで公開している収蔵作品データベースの更新を行い、作品紹介の検索向上に繋がっています。 ・若手芸術家支援事業では、有望ながら中々発表の場のない若手作家に貴重な機会を提供し、文化芸術における次世代育成に寄与したことを評価します。 ・インターン生や職業体験、及びコレクション展鑑賞サポーターの募集・受け入れにより、幅広い年代の方へ文化事業への参画や学び・交流の場を創出する機会が提供できました。
		□入場者数	12,000名	10,333名	出品者数の減少にともない、入場者数も減少しました。		
		□出品数	2,000点	1,386点	コロナ禍以降初めて団体出品を受けましたが、4年のブランクにより団体出品数が大きく減少しました。		
		□顧客満足度	4.0以上	4.72			
		□②(1)こどものためのコレクション展 実施回数 ※2-2-②に記載	—	—	こどものためのコレクション展「いろいろ」		
		□②(2)自由参加ワークショップ 実施回数	1回	1回	感染症対策(混雑緩和)のため、「みんなでつくるコーナー」に内容を変更しました。		
		■②(3)夏の子ども音楽会実施検討	実施	検討実施	混雑を回避できる十分なスペースが確保できないため、非開催としました。		
		□③ハマキッズ・アートクラブ 講座数	10回	10回	ヨコハマトリエンナーレにむけ、アーティストを講師とする現代美術講座「自分のアバター(分身)をみつこう」を開催しました。		
		□参加者数	200名	170	感染症対策として例年の6割程度に定員を減らして開催しました。		
		□顧客満足度	4.0以上	4.88	各講座とも保護者から高い評価が得られました。		
□③横浜市民ギャラリーまるごと探検ツアー 実施回数	1回	1回					
□④横浜市芸術文化教育プログラム推進事業 学校プログラム コーディネート校数	3校	3校	学校の要望をヒアリングのうえ、積極的に協力し、3校全9回実施しました。(稲荷台小/絵画、荏田小/工作、権太坂小/工作)。				
2 若手芸術家による作品発表の支援	■①U35若手芸術家支援事業の実施	随時	実施			【成果】 当制度を導入してから、各年1~2件の実施ではありますが、対象芸術家の作品や展示法の質も高く、市民ギャラリーの次世代育成事業としての可能性を感じています。	
3 あらゆる人の参画、学び、交流の場の創出		■①大学生・大学院生インターンの受け入れ	実施	実施	子ども事業4名、学芸系事業4名を受け入れました。	【成果】 「子ども向け事業企画・運営活動」では、ハマキッズ・アートクラブや「横浜市こどもの美術展」での運営補助や1月のワークショップ企画・運営をおこない、事業を通じた研修の成果を企画に反映させ実施ができました。「コレクション管理補助業務」では、IPM自主点検の体験、作品に関する基礎的作業等に携わり、特にHPでの収蔵作品サムネイルの299件の新規公開に大きく寄与しました。「事業アーカイブ構築補助業務」では、ホームページ「事業アーカイブ」公開用データの準備を進め、年間89件の事業情報の公開が実現できました。また、展覧会アルバムや資料の整理も進めました。レポートやヒアリングで進捗やニーズの把握につとめ、充実した活動をおこないました。	
		□②ボランティア活動 実施回数(コレクション展鑑賞サポーター等)	2回	2回	中学生以上対象。①「横浜市こどもの美術展」ボランティア(自由参加ワークショップ運営および鑑賞サポート活動)31名、②コレクション展鑑賞サポーター活動9名		
		■③(1)職業体験(特別支援学校生)の受け入れ	実施	未達	例年、特別支援校を対象とした清掃業務体験を実施していましたが、今年度は希望者がなく未達となりました。		
	■③(2)職業体験(中学生、高校生)の受け入れ	実施	実施	12月に中学2年生2名を受け入れ、施設管理や事業準備に関する体験を実施しました。	【課題】 「子ども向け事業」の内、インターンが企画するワークショップでは、アウトリーチ先の条件に沿った内容を短期間で組み立てる必要があり、難しい場面もありました。「コレクション管理補助」「事業アーカイブ構築補助」は担当職員以外への細かな内容共有が課題です。		

令和5年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 文化活動のための施設提供及び市民の文化芸術活動の支援(貸館事業)(使命1)	1 ご利用団体の活動をサポートする取組	①お客さま台帳の更新	実施	実施	今年度登録団体について適切に更新しました。	【成果】 「お客様台帳」については、昨年度データ登録が終了し、今年度より稼働しています。今後、更新を重ねよりスムーズな対応への活用を目指します。 情報誌の発行やHPの充実については、当館の活動のみならず、施設をご利用いただいている方々にとっても重要な情報発信ツールである事を認識し、常に「分かりやすい」発信を心掛けています。 【課題】 アトリエの利用促進は、コロナ禍の影響を見据えつつであるため、積極的には実施しませんでした。それでも、利用率が目標値を大きく上回っているのは、館内のコロナ対応における飲食禁止に伴う、唯一の「食事場所」としての利用が多かった事によります。今後は、飲食コーナーの再開が始まったので、純粋に芸術文化利用によるアトリエ利用率向上への方策を講じます。	【評価できる点】 ・データ登録が完了した「お客様台帳」の運用が開始できました。 ・コロナ禍での施設運営として館内飲食禁止による食事場所としてのアトリエの活用など利用者や時勢に対応した施設運営を行いました。 【更なる取組を期待する点】 ・「お客様台帳」の活用方法を検討し、利用促進に繋げてください。 ・芸術文化利用によるアトリエの利用促進に繋がる方策を期待します。 ・総来場者数目標(25万人)が未達となっています。R8年度の総来場者数目標達成に向けて、次年度以降計画的に取り組みを進めることを期待します。
		②アトリエの利用促進 ■(1)施設情報発信による施設情報周知	実施	実施	送迎車車内での動画での紹介等周知に努めました。		
		■(2)ホームページでの空き室情報の公開	実施	実施			
		□(3)アトリエ利用率	44%	58%			
		■③附帯設備の充実	実施	実施			
		■④ご利用打合せと相談	実施	実施			
		⑤送迎車運行サービス ■(1)車椅子利用者等の利用にも配慮した無料の送迎車の走行 ■(2)展覧会に即した着実な運行とスケジュール周知	実施	実施	運行会社と連携し、専用車故障時にはタクシー車による代行運行を行うなど、利用者便宜第一に運行しました。		
	2 情報発信支援	■①本施設ホームページ運営、SNS運営	実施	実施	主催展覧会の日々の様子を紹介するなど、施設紹介以外にも情報発信に努めました。		
		□②「横浜画廊散歩」発行	6回	6回			
		□③「アートヨコハマ」発行	3回	3回			
		□④「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」発行	1回	1回			
		■⑤多文化共生に向けて活動している団体への情報提供に向けた検討	実施	実施			
		■⑥障がいのある方の文化芸術活動を支援している団体との情報交換に向けた検討	実施	実施	NPO法人エイブル・アート・ジャパンがおこなう社会包摂事業「みんなでミュージアム」の障がいのあるコーディネーターを対象とする研修を2回受入れ、障がい者の事業参加に向けた検討に協力しました。		
	3 新たな表現者、鑑賞者を迎える取組	■⑦ホームページにおける事業アーカイブの拡充	実施	実施			
		■①U35 若手芸術家支援事業 ※I-3-2-①に記載 ■②10人以下の団体および個人への貸出	—	—	4月開催「REGARDING THE ECHO OF OTHERS」		
2 組織的な施設運営(様式14)	1 必要人材の配置と職能	■①共同事業体各社から業務ごとに専門性の高い職員を適正に配置する。	実施	実施	適切に配置しました。	【成果】各部署でのミーティングや全体会議で、課題や取組について議論することで情報共有するほか、外部研修の内容を共有し、全スタッフの施設運営に対するスキルアップができました。 【課題】 人事異動や有期雇用職員の期限に伴う人材の流動性が課題ですが、平素よりスタッフ間でのお客様対応等の情報共有や業務のローテーションで個々の経験値を高めることにより、スタッフのスキルの平準化を図り、常時高いレベルの利用者サービスを提供できる施設運営の保持に向け、引き続き取り組みます。	
		2 主要人材の能力担保	■①職員各々に応じたOJTについて年間を通じて実施する。	実施	実施		
	■②業務進捗管理シートによる組織的な業務遂行	実施	実施				
	■③専門職員研修	実施	実施				
	■④人権研修 ※VI31に記載	実施	—				
	■⑤コンプライアンス研修	実施	実施	新採用職員配属に合わせて年度当初に実施しました。			
	■⑥個人情報保護法研修	実施	実施	新採用職員配属に合わせて年度当初に実施しました。			
	■⑦防災訓練	実施	実施	8月・火災発生時初動実地訓練/2月南海トラフ地震研修			
	■⑧AED取扱い研修未受講の新配属スタッフ等対象に実施	実施	—	配置職員研修受講済です。			
	■①運営チーム確認ミーティング	週1回	週1回				
	□②職員全体ミーティング	月1回	月1回				
	□③環境管理会議	月1回	月1回				
	□④送迎車運行スケジュール調整会議	月1回	月1回				

令和5年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

3 施設全体の運営に対するアイデア・ノウハウの一層の活用 (様式25)	1 アートを楽しむことができる環境づくり	■①いりぐちギャラリー R6年度開始に向けた展示内容の検討	実施	検討実施	令和6年4月の開設に向け、実施計画および準備を行いました。	【成果】 ・「いりぐちギャラリー」及び「美術図書コーナー」の設置については、コロナ禍において、実際に施設に対し誘客を増加させる事業を差し控えて来ましたが、事態の鎮静化を受け次年度の「開館60周年」を契機に実現すべく準備を進めました。 ・各広報媒体に対し遅滞なく情報提供を行い、確実な掲載を実現しました。 ・第4期指定管理期間においては、各種施設や団体との「連携事業」への注力を重視しており、その初年度に当たっては、意識的に当館が繋がり求めている事をアブローチし、基盤整備に努めました。「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」については、単にイベントを開催する事ではなく当該地域の施設が常態的に連携を図る仕組みの提案行いました。また、近隣幼稚園の母親を対象とした「施設概要とコレクション」に関するレクチャーと鑑賞機会の提供を実現し、今後に向けた連携の継続を促しました。 【課題】 「地域連携」を軸とした展開においては、相手方との理解度の共有が重要になるため、当館の考え方を丁寧に説明し、方向性の齟齬が生じないように進める必要があるため、事業の始動から時間を要するため、一朝一夕には成果が見えない事が挙げられます。	【評価できる点】 ・開館60周年を迎える次年度を見据えて、時勢により控えていた「いりぐちギャラリー」「美術図書コーナー」の展示を計画し、施設や団体との連携基盤の整備を進め、「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」においては、常態的に連携を図る仕組みの提案を行ったことを評価します。 【さらなる取組を期待する点】 ・開館60周年に向けてたざらなる計画・周知や他館・団体との連携を期待します。
		■②美術図書読書コーナー設置検討	実施	検討実施	令和6年4月の開設に向け、実施計画および準備を行いました。		
		■③飲料自動販売機とお菓子やパンの自動販売機設置	実施	実施			
	2 芸術文化に触れるきっかけづくり	■①美術団体の活動紹介 継続実施	実施	実施			
		■②テーマを設けたポスター等の掲出	実施	実施	館内各所に地域/ジャンル等のテーマ別にポスターを掲示しました。		
		■③ホームページ、YouTube、SNSでの情報発信 ※Ⅱ-1-2①に記載	—	—			
		■④PR TIMESへの情報発信、タウンニュース、ヨコハマ経済新聞等への情報提供	実施	実施			
		■⑤広報よこはま(西区版、中区版)への情報提供	実施	実施			
		■⑥画廊、美術施設の情報収集・発信(情報誌)	実施	実施			
		■⑦横浜の画廊、美術施設のホームページでの紹介 継続実施	実施	実施			
		■⑧横浜市の重要事業の告知	実施	実施			
	3 地域連携	■①5館連携事業「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」 ※Ⅰ-1-3①に記載	—	—			
		■②宮崎町親和会、伊勢山皇大神宮、成田山横浜別院との情報交換	実施	実施	チラシ掲示/配架、広報協力、駐車場運用協力等、円滑に連携して活動しました。		
		■③アートなお散歩支援事業 関係づくり検討 ※Ⅰ-1-3②に記載	—	—			
		■④黄金町、若葉町との穏やかな連携 ※Ⅰ-1-3③に記載	—	—			
■⑤横浜美術館、横浜市民ギャラリーあざみ野との連携		実施	実施	研修への相互参加、自主事業時の備品提供協力、当館主催事業への美術館ショップ商品の活用等、日常的に協力して活動しました。			

評価項目		令和5年度計画			実施状況		評価	
Ⅲ施設管理	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価	
1 保守管理業務 (使命5)	1 日常点検業務・定期点検業務	■業務の基準に即して実施。 ■設備管理業務日誌での日常点検の通年の記録と共有	定例実施	定例実施		【成果】 施設管理担当部門と事務管理部門との日常的な情報交換を通じて館全体の状況を適切に管理しました。小破修繕についても階段室手摺の補修、中央監視層装置予備電源の交換等、利用者の安全/施設の安全維持の観点を最優先に適切に実施しました。 【課題】 移転後10年ではありますが建物自体は経年劣化も進んでおり、メーカー推奨の耐用年数を迎える設備も出てきています。1Fエントランス天井部分の雨漏り等、施設の利用に大きく影響を与えかねない事象も発生しており、引き続き適切な状況とう横浜市との情報共有に努めます。	【評価できる点】 ・日常点検や定期点検、巡回等を通じて適切な施設管理を実施しました。 ・収蔵庫内の温湿度管理についても、環境会議や専門会社による全館調査・自主検査等を踏まえ検討を重ねながら適切に管理していただいていることを評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・施設・設備の不具合箇所が発生した場合には、適切な小破修繕の実施を行うとともに、関係各所との情報共有を行う等、継続して施設の長寿命化に努め、引き続き良好な施設の維持管理に努めてください。	
	2 効果的な小破修繕への取組	■全職員及び横浜市との情報の共有。緊急のものは早期に横浜市と協議。 ■定期点検や日常点検、横浜市の施設管理におけるガイドラインに沿った点検・報告等の実施による修繕必要箇所の早期発見・対応 ■保守管理の専門技術を活かした、突発修繕への速やかな対処	実施	実施	必要性に応じてモニタリングやその他機会を通じて適切に横浜市と協議/情報共有を行いました。			
	3 備品等の適切な管理	■備品等は、常に良好な状態に保ち、管理します。 □年1回、物品管理簿の棚卸を行い、物品が適切に管理されているか確認し、市に報告します。	実施	実施	実施			
2 環境維持管理業務 (使命5)	1 IPMの手法による施設環境課題への対応	□共同事業体で環境管理会議を開催	月1回	月1回				
		□職員による温湿度データ確認、カビのサンプリング、目視確認	隔月に1回	隔月に1回				
		■職員による簡易消毒、清掃	随時	随時				
		□専門会社による全館調査	1回	1回				
		■収蔵庫の空調管理の実施	室温22℃(±3℃) 湿度53%(±)	—				
	□専門会社による地下1階展示室パネル裏消毒	1回	2回	水分を使わない新方式を採用し、来館2回で処置となりました。				
2 全スタッフによる目配り	■展示室壁面の塗装、展示室可動パネルの稼働状況チェック	随時	随時		職員の目視による日常点検/整備に加えて、専門業者による3F展示室壁面の整美を実施しました(1月)			
	■展示室貸出備品の点検・整備	随時	随時					
	■アトリエ貸出附帯設備の点検・整備	随時	随時					

令和5年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

3 保安警備業務 (使命6)	1 警備	■8:30～18:30までは警備担当による警備、18:30～翌8:30までは機械警備	実施	実施	【成果】 事故防止体制・緊急時のための方針と対策として警備専門スタッフ及び機械警備による警備体制を敷くとともに、日頃から連絡・報告体制を整えました。新型コロナウイルス感染拡大防止策については、横浜市からの通達に沿ったガイドラインを策定し、ご利用者や来館者、施設スタッフの安全確保を第一に運営を行いました。 【課題】 今後は、「ウイズコロナ」へ向けた施設運営のあり方を確立し、それに沿った利用者様への対応を構築する事が求められます。	【評価できる点】 ・新型コロナウイルス感染拡大防止策について、市ガイドラインに沿った運用策定を行い、利用者やスタッフの安全確保を第一に運営を行った点を評価します。
		■異常感知した場合、専門業者が急行し必要に応じて所轄警察署に連絡し緊急対処を要請するとともに館長等に状況や対処方法を報告。	実施	実施		
	2 怪我・急病	■異常発生の報を受け次第、スタッフが現場へ急行、対応。	実施	実施		
		■事故発生時、市を含む関係者に速やかに報告し、必要な対応と原因調査にあたる。 ■救急要請対応についてスタッフ研修を実施 ■AEDの完備、AED取扱い研修実施	実施	実施		
4 防火・防災等 (使命5)	1 防火・防災対策	■共同事業体で自衛消防隊を組織	実施	実施	【成果】 消防訓練のみならず、日常においてのシフト勤務の中でも、迅速な対応ができるように、自衛消防団の役割を出勤者の記名ボードに、毎日明示しています。 【課題】 防火・防災については、職員各自の主体的な意識が重要なので、日頃より災害等に関する話題を職場内で認識し合う雰囲気のある構築が必要です。	【評価できる点】 ・防災訓練ほか日常においても、自衛消防団の役割を記名ボードに毎日明示や「帰宅困難者一時滞在施設」の運用についても意識し、日ごろから各職員の防災意識を高める取り組みを実施していることを評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・災害発生時等の対応・運用について、今後もスタッフ間の共有がなされ、体制が確立されることを期待します。
		□年2回防災訓練を実施する。	2回	2回実施		
		■日頃からの危機意識の向上	実施	実施		
		■感染症対策のため、日常的な清掃を徹底、手洗い等について喚起	実施	実施		
5 緊急時の対応 (使命5)	1 緊急時(災害発生時)の連絡体制・役割分担	■全職員に対し緊急時の連絡体制と役割分担についての周知を徹底する。	実施	実施	【成果】 令和6年度より「帰宅困難者一時滞在施設」に登録し、可能な限り市民の方々の緊急時の安全確保に貢献できるよう努めます。 【課題】 閉館時や休館時に発生した災害への対応を行う上での、全職員への「安否確認」を迅速かつ効率的に行うためのツール確立(現時点では、SMSを選択)し、訓練を含め定着化を推進する事とします。	
	2 災害発生時の取組	■横浜市において災害対策本部等が設置された場合は、その指示に従うとともに、横浜市と協力し災害対応に協力します。 ■災害が発生した場合は、お客さまの安全確保を最優先に対応します。災害の内容や規模に応じて、また横浜市の方針に基づき、すみやかに「広域避難場所」や「帰宅困難者一時滞在施設」に誘導できるよう、職員に対応について周知。	実施	実施		
6 その他施設管理に関する事項	1 施設の管理を行う上で必要な資格者の配置	□電気主任技術者(3種)を1名選任する。	実施	実施	【成果】 施設/建物管理の専門業者が指定管理構成団体に入っているため構成団体本社によるサポートも含めて十分な体制が整っています。 【課題】 職員の異動や退職時に速やかに代替人員を充当する事に努めます。	
		□建築物環境衛生管理技術者を1名選任する。	実施	実施		
		□甲種防火管理者を1名選任する。	実施	実施		

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 指定管理料のみに依存しない収入構造 (様式23)	1 利用料金収入の増加	□展示室・アトリエの利用料金収入	1,118万円	¥11,197,950	ほぼ見込み通りの収入となりました。	【成果】 展示室/附帯設備の利用料収入は予算を達成しました。駐車場利用収入についても駐車場担当者(警備担当)の柔軟な判断で予約車以外にも積極的に受け付けて増収となりました。光熱費については引き続き高騰していますが、施設管理部門のノウハウを活かし夏季冷房運転時の冷温水発生機の運転時間をできるだけ抑制し支出の削減に繋がりました。 【課題】 展示室の利用率がほぼ飽和状況にあり利用料金その他の収入の確保は厳しい状況にあります。展示会等助成金についても競争が厳しく獲得は容易ではないのが実情ですが、引き続き獲得に努めます。	【評価できる点】 ・コロナ禍での体制の中、展示室・付帯施設の利用料収入は目標を達成し、駐車場の利用料収入も増収に繋がった点を評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・持続可能な施設運営とするため、収支バランスに配慮した企画立案及び管理業務を継続してください。 ・助成金が獲得できる企画立案に期待します。
		□駐車場の利用料金収入	100万円	¥1,792,400	柔軟な利用受入/近隣施設との連携等、増収に努めました。		
	2 「大人のためのアトリエ講座」において、講座直接経費を受講料収入で賄う方策を検討	講座直接経費の受益者負担率向上に向けた検討を行う。	実施	実施	講座内容/講座規模と利用者の参加し易さを考慮し、当面現状水準を維持します。		
3 その他収入等の増加		□印刷代収入	4万円	¥24,520			
		□自動販売機手数料収入	16万円	¥192,960	欠品等について都度補充を依頼擦る等、利用者便宜の確保に努めました。		
		□助成金収入	50万円	¥0	採択には至りませんでした。		
2 経費削減等効率的運営の努力 (様式23)	1 事業広報手段の転換	■オンライン印刷やインターネット配信、SNS等を効果的かつ効率よく活用することで、デザイン費・印刷費・郵送費などの削減。	実施	実施	諸物価高騰の流れを受けて配送各社共に値上を志向しています。次年度以降配送先/配送部数の精査を行います。		
	2 発注や事務の工夫、コスト意識	■横浜市に準じた当財団の経理規程に基づき、入札や見積合せにより経費を削減。 ■職員が常にコスト意識を持ち、広報印刷物の有り方の工夫、事務用品の再利用等の徹底。	実施	実施			
	3 施設・設備管理の工夫	■施設管理や修繕の経費、エネルギー使用状況等を日々確認し、経費節減・支出抑制を行う。	実施	実施			

令和5年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

V 各種計画書・報告書の作成及び業務評価	業務の基準	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
	1 日報、月報の作成・管理	□業務日報の作成	毎日	実施		【成果】 シフト勤務による運営では、これらの情報が日々しっかり付けられる事により、全体を俯瞰する事が出来る状態を保つことが可能となり、安定運営に繋がっています。 【課題】 繁忙期においては、現場を動かす業務と書類作成に関わる事務処理業務が重なる事があり、職員負担増となる事があります。出来る限り、先手を打った対応を図るよう引き続き心掛けていきます。	
		□管理運営月報・完了確認書を作成し、モニタリングにおいて報告	毎月	実施			
	2 事業計画書・事業報告書の作成・管理	□事業計画書・事業報告書の作成	提出期限まで	実施			
	3 業務評価の実施	□自己評価(仮決算含む)	提出期限まで	実施			
VI その他	選定要項	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 市の重要政策課題への対応 (様式26)	1 個人情報保護についての取組	■個人情報の保護に関する法令等を遵守し、個人情報を適正に取り扱う。	実施	実施	施設キャビネットでの保管(物理媒体)、パスワードが必要な状態での保管(電磁媒体)の徹底等、情報の安全な保管を徹底しました。	【成果】 研修やミーティングを通じコンプライアンスの取組や、危機管理、人権配慮等についての知識や意識を共有し、職員全員で取り組むことができました。 【課題】 今年度は、期中においてEメールの誤送付が1件発生してしまいました。当該業務の流れ見直し再発防止に努めたと共に、今後もコンプライアンスや危機管理に継続的に取り組みます。指定管理者事務局本部では、毎月1回コンプライアンス委員会を開き、コンプライアンスに関する具体の事例について検討しました。今後も継続してその検討内容を全スタッフに共有することで、日常の業務の危機管理に備えます。	【更なる取組を期待する点】 ・誤送付の再発防止に向け、日常からコンプライアンスや危機管理等の共有や取組を継続してください。
		□職員向けに個人情報保護に関する研修を年1回実施する。	1回	実施			
		■個人情報の取り扱いの規定及びマニュアル等に基づき適切に取り扱う。	実施	実施			
	2 情報公開についての取組	■横浜市の情報の公開に関する要綱や規定等に準拠して作成した当財団の「情報公開規程」に従って、公正で透明性の高い運営を担保。	実施	実施			
		■必要に応じて当財団の顧問弁護士に相談できる体制をとる。	実施	実施			
		□人権研修を年1回実施し、職員一人一人が人権尊重を実践するよう取り組む。	1回	実施	「障がいのある方への合理的配慮義務」について、ビデオ視聴&職員ディスカッションを行いました。		
	4 環境への配慮に関する取組	■飲料自動販売機のペットボトル飲料を、可能な限り缶飲料に切り替える。	実施	実施			
		■毎月のゴミ排出量の増減を確認し、削減や分別に関して掲示によりスタッフへの意識づけを実施。講座での物品の再利用等の工夫の実施	実施	実施			
		■産業廃棄物は法令に則って適切に廃棄。	実施	実施			
		■電気、ガス、水道の使用量を記録し、過年度同時期との比較・分析を行い、削減に努める。	実施	実施			
		■印刷物製作にあたり、カーボンオフセットを活用。	実施	実施			
	5 障害者差別解消	■来館者の立場にたった日頃の確認の実施。課題が見つかったときは素早く対応を実施。	実施	実施			
		■職業訓練の受入を通じてスタッフが障がい者差別解消の理解を深める機会とする。	実施	実施			
■スタッフが適切な行動をとれるよう、継続的な啓発の実施。		実施	実施				
6 男女共同参画	■男性・女性の別なくスタッフが活躍でき、かつライフステージに応じた“多様な働き方”に対応できる職場づくり	実施	実施				
	■個人が能力を最大限に発揮し、多様な人材が活躍することにより生産性が上がる活気ある職場づくり	実施	実施				
7 市内中小企業優先発注についての取組	■「横浜市内中小企業振興基本条例」を踏まえ、可能な限り市内中小業者への発注に努める。	実施	実施				
2 その他	1 保険及び損害賠償の取扱い	■施設賠償保険、動産総合保険、レジャー・サービス施設費用保険へ加入	実施	実施		【成果】 所定の手続きについて、適切に対応しました。 【課題】	
	2 関係法令等の順守	■業務を遂行する上での、定められた関連法規等の遵守	実施	実施			
	3 市及び関係機関等との連絡調整	■事故に繋がる可能性のある不具合時は即日報告とし、随時共有	実施	実施			

令和5年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

	評価	
	自己評価	行政評価
	<p>第4期の2年目となる令和5年度についても、引き続き幅広い利用者の文化活動実現の場としての貸館事業、当館が主体となって展開する展覧会や講座・ワークショップに加え、収蔵作品の保存活用、他施設との連携、若手作家支援等を培ってきた経験やノウハウを活かし着実な運営を行い、全体を通して概ね順調に当館に課せられたミッションを遂行したと自己評価します。</p> <p>ここ数年に渡る新型コロナウイルス感染症予防対策における制限が徐々に緩和されたことを受け、来館者への検温・消毒・マスク着用の任意化や飲食可能スペースの再開、「横浜市こどもの美術展」への応募作品受付を従前の団体応募も可能に戻すなど、「ウイズコロナ」の施設運営の在り方を模索し柔軟な対応を行いました。</p> <p>また、開館60周年及び現在地への移転10周年である令和6年度の「周年事業」実施に向けた準備を進め、次年度への布石を打つことにも留意し、次年度当初からの円滑な滑り出しに備えました。</p> <p>貸館事業においては、「市民のためのギャラリー」として、ご利用者の市民の皆さんの文化活動を支えることを意識し、細やかで丁寧な貸出業務を通じ、「晴れの場」であり、身近に人と人が交流する喜びを生む空間が創出される運営を心掛け、利用者アンケートにおいても高い評価を得ることが出来ました。</p> <p>「新・今日の作家展」では、現代美術を通して訪れた方々に心豊かな時間を提供するとともに、新たな表現を発信してきた当館の歴史を未来へ繋ぐ事を意識しました。来場者数において、目標値達成が適わなかったことを受け止め、一般市民の方々が現代美術への関心を持ち会場に足を運んでいただけるよう広報面等での再検証を進めます。</p> <p>美術に対する体験を求める幅広い世代のニーズに応えるべく多彩なワークショップや講座を展開し、その多くで定員を超える応募がありました。</p> <p>子どもたちが生涯にわたって芸術文化に親しみきっかけとなる展覧会、ワークショップを積極的に提供しました。また、学生インターンを受け入れ、アートにかかわる就業を目指す若い人たちに実際の現場に触れる機会を設けるなど、次世代育成にも注力しました</p> <p>当館の収蔵作品を「コレクション展」を核にホームページや情報誌を通じて積極的に紹介すると共に、現状調査及び修復やIPM、収蔵庫の環境維持改善等を遂行し横浜市にも情報を共有しました。</p> <p>専門的な知見から常に状況を把握して予防的修繕や維持管理を行うとともに、長期的な持続可能性を高めるための修繕や計画については横浜市に情報提供を行い協働の上、取り組みました。その結果、快適な施設環境の提供とお客さまの安全を第一とした施設運営を実現できたと考えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の制限が緩和されてきた過程の中で、制限と再開のバランスを検討しながら着実に事業を実施し、市民の方へ文化芸術の鑑賞機会の場を安定して提供運営していただいた1年でした。 ・展覧会及び企画講座の内容についても、質の高いものを提供し、参加者の高い満足度を得ることができました。 ・次年度の開館60周年に向けた連携企画や事業案の検討を進め、近隣施設や団体との連携基盤を整える取り組みを評価するとともに、積極的な周知や新たな利用者層に繋がり、市民ギャラリーの事業の幅が広がることを期待します。 ・コロナ禍以前の状況と現在及び今後を見据え、時代の変化にも対応できる実施可能な方法を検討しながら、設置目的を効果的に達成できるよう利用者に文化芸術に触れる機会を引き続き提供してください。 ・来場者目標の達成に向け、幅広い方に向けた周知の工夫・促進や多彩でユニークな企画による更なる鑑賞者の拡大に繋がる計画・運営を進めてください。 ・次世代育成を意識し、子ども向けの展覧会・ワークショップの拡充や学生インターンの受け入れなど、芸術文化に親しみきっかけや環境づくりや現場での体験機会の提供を引き続き継続してください。 ・収蔵作品の状況確認や、データベースの情報更新、施設内の小破修繕等を適切に進めることを期待します。 ・より多くの方へ当館が周知できるよう、オンラインによる配信、ホームページやSNSでの情報提供やエンタランスモニター等での作品紹介などを充実させる取組を継続することに加え、実展示についても多彩でユニークな企画による更なる鑑賞者の拡大に繋がる計画・運営を進めてください。 ・多様な切り口や手段で施設の使命に資する今後の発展的な継続に向けた取組に期待します。